

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
CEP1 Yellow	小林 伊織. ジュリアス マルティネス. マルー モーア	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
C E P1 Blue	小林 伊織. ジュリアス マルティネス. マルー モーア	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
C E P1 Red	小林 伊織. ジュリアス マルティネス. マルー モーア	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
C E P1 Green	小林 伊織. マル一 モーア	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
C E P 1 Orange	小林 伊織. マル一 モーア	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
C E P1 Purple	小林 伊織. マル一 モーア	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
120033	ZX1120033			国際学部国際文化学科	基礎	必修	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	必修	1年
C E P 1 Brown	小林 伊織	3	前期	情報文化学部情報文化学科	基礎	必修	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

授業目的

CEP 教員は国際語としての英語に焦点を当てた指導を行う。英語を自分のものにし、興味・関心のある事柄について話すことができるよう学生の能力を伸ばす。また英語を話すように学生の意識啓発を行う。または担当教員は授業を楽しく、有意義なものにするよう努力を怠らない。

各回毎の授業内容

CEP 1 の目的は以下の通り。

1. 英語で意思疎通できるよう学生の能力を伸ばす
2. より主体的に、自主学習できる学生へと導く
3. 語彙力を増強し、文法力を高める
4. 英語スキルと運用能力の向上に努める
5. 読書の流暢さと読解力を高める
6. 多様な洋書を楽しみながら読むことができる

プレスマントテストのスコアに基づき、学生は同じレベルの学生が集うクラスに振り分けられる。これらのレベルが学生の成績を左右することはない。CEP には複数のクラスが用意されているので、学生は自分のレベルに程近いクラスで学習することができる。これにより、学習の上達がより早くなる。色分けされたクラスは以下の通り :

Yellow
Blue
Red
Green
Orange
Purple

CEP では、2種類のクラスがあり、communication クラスと reading and language クラスに分けられる。Communication クラスでは、学生が興味を引くような英語のコミュニケーション活動を行う。様々な状況におけるコミュニケーションの仕方を学ぶ。学生が関心のある事柄について仲間や教員に話す機会もたくさんある。話す/書く/読む/聞く、4技能の流暢さを向上させる訓練も用意されている。言語習得の最善策は実際に使用することなので、クラス内で出来る限り話すことが求められる。Reading and Language のクラスでは、学生は多読、リスニング、そして言語自体についての学習に焦点を当てた活動（学生の英語運用能力を高めるために必要な語彙や文法を学習することを目的とした活動）を行う。また、読解力や読書の流暢さを伸ばす訓練も盛り込まれている。

成績評価方法

CEP では、出来る限り積極的に授業に参加することが重要である。そうすることで多くの学生が英語で話せば話すほど、上達するからだ。それぞれのクラスで、CEP 教員が授業の積極性に対し成績評価をつける：発言回数、質問/解答回数、問題解決への取り組み、仲間へのサポート、会話の持続性。積極性が非常に重要なので、学生は定期的に成績評価やそれについてフィードバックを受ける。従って、積極性は総合成績のかなりの部分（30%）を占める。

また、時間厳守や授業への心構えもまた重要だ。正当な理由のない遅刻は入室禁止となり、欠席扱いになる。授業で必要な学習教材（『graded readers』、教科書、辞書、ノート、筆記用具等）を忘れずに持参することが求められる。忘れるとなれると欠席扱いとなる。

積極性の成績評価に加え、定期的にコミュニケーション・タスクが評価される。これらのタスクはスピーキングに類似したもので、様々な状況下で、既習済みの言語を使った英語コミュニケーション能力を評価するもの。コミュニケーション・タスクが実施されている間、1人又は2人のCEP 教員がコミュニケーション能力を測り、成績評価をつける。コミュニケーション・タスクへの総合評価は全体の30%を占める。

して各自行った自主学習活動の記録をつける。学習ポートフォリオとして提出されたものは CEP において非常に重要な役割を果たす。従って、総合成績評価では30%を占める。それは英語力や学習スキルを高めることに加え、課題の質、自主学習に傾けた努力も一層高い評価に繋がるからだ。学習ポートフォリオについてより細かな説明は授業時になされる。

教科書参考書

TBA

受講に当たっての留意事項

You need to have at least 80% attendance and 60% academic grade in order to pass.

学習到達目標

By the end of this course, the student will have enough proficiency to attend CEP2.

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習